

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	みらいく下目黒園
施設所在地	目黒区下目黒 3 - 6 - 6
法人名	株式会社第一コーポレーション

1. 活動のテーマ

<テーマ>

色と食育

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など) 園児たちの生活の中では「色」への関心が強く見られます。「この色とこの色を混ぜたら何色になるのか」「自分の好きな色は何か」といった会話や歌を楽しんだり、色水遊びを通して色の変化に興味を示す姿が日常的に見られました。こうした子どもたちの探究心や好奇心をもとに、テーマを「色」に設定しました。 さらに、園の特色として大切にしている「食育」へとつなげ、栽培活動やクッキング体験を取り入れます。自らの手で育て、調理し、味わう経験を通して、五感を働かせながら学びを深めていくことをねらいとしています。

2. 活動スケジュール

10月から3月まで行う。日常的に盛り込んでいく。1回はみんなでやる。その後は自由にできるようにして記録を取っていく。アートエリアにおいていつでもできるようにする。	
10月：色を知る（花紙、ままごと）	11月：色を作る（パンダ色配合／混ぜる）
12月：色の探し（カード拾う）	1月：子どもの気持ちと色の関係（会話、天気の色など）
2月：色の変化（フィルター、花）	3月：にじみ絵を使った創作アート

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)					
・顕微鏡	・色図鑑	・色マット	・花紙	・絵具	・色の実験
セット	・棚	・食べ物	・画用紙	・コーヒーフィル	
ター	・デジタルフォトフレーム		・ラミネート	・スライム	
・紙粘土	・ピーカー	・マドラー	・、ままごとの器具		
・風船	・タコ糸	・両面クリップ			

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

3歳児の子どもたちが小松菜が苦手なことがきっかけに、栽培がスタート。出来た小松菜でクッキングと共に、自分たちでもすり鉢で擦ってみたり、水に入れてみたりと実験を行う。その際に、緑色の液が出ていることに気付いたことをきっかけに、4歳児、5歳児も加わり、染め出しへの活動へと繋がった。子どもたちは「色が出た！」と興味を示し、布や毛糸を染めることを楽しむ姿が見られた。その経験から、「他の食材でも色は出るのか？」といった関心が広がり、紫キャベツやミカンなど、様々な食材を使った染出しへと探究が発展していった。このように、日常の中での気づきを起点に、子どもたちの興味や疑問を次の活動へと繋げることで、主体的な探究活動へと広がっていった。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)
小松菜をつぶして色が出る事に気付くと、「なんで緑になるの?」「他のもやってみよう」といった声が上がリ、子どもたちは自ら素材に触れながら試す姿が見られた。色水遊びや染めだしでは、「混ぜたらどうなるんだろう」「こっちは違う色になった」など、変化に気づき、友だち同士で共有し合う様子も見られた。また、年上児がやっている様子を見て、乳児が興味を示し、近くでじっと見つめたり、手を伸ばそうとするなど、異年齢での関わりも生まれた。保育者は、子どもたちの気づきや疑問を受け止め、「どうなると思う?」「やってみよう」といった声かけを行いながら、子ども自身の発想や思考錯誤を大切にしたりした。また、すぐに答えを伝えるのではなく、子ども同士の関わりや発見が広がるよう見守る関わりを意識した。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもたちは実際にやってみる中で新たな気づきや発見を生み出し、それが次の活動へと繋がっていく姿が見られた。一つの体験の中で終わるのではなく、「もっとやってみよう」「他のも試してみよう」といった思いが自然に広がり、次の発展が見えてくることを実感した。また、子どもたちはそれぞれの視点で様々な発見をしており、その気づきを大切に受け止めることで、探究活動がより深まっていくことに気付いた。